

ワケあり区、

足立区 職員採用案内&区政要覧 2025

足立区



良いワケ
たくさん足立区。

知ってほしい、足立区のリアル。

ワケあり区、足立区。

足立区には多くの人に愛される「ワケ」があります。

「足立区に愛着をもっている」区民は約7割。

一方、区外からは今なお、事実に基づかないマイナスイメージで語られています。

笑顔あふれるファミリー、イキイキとした起業家、まちの魅力を楽しむ学生・・・

みんなが足立区を選ぶ「ワケ」を知っていただきたいから、

「ワケあり区、足立区。」プロモーション、はじめました。

詳しくは

ワケあり区



区長メッセージ

同じ公務員と言っても、国・都・特別区等とある中で、どちらに進もうかと迷っている方もおられるかも知れません。外交や防衛等、国でなければできない仕事もありますが、特別区職員の魅力はなんと言っても「現場」を持っていること。地域の方々の想いや声を直接受け止めて仕事ができる、これが何よりの醍醐味です。

コロナ禍の3年間、国はワクチンの輸入、都は各自治体への配布、私たち特別区は一日でも早い接種に向けて知恵を絞りました。当時は全く先の見通せない不安の中で、区民の命をいかに守り抜くか、庁内一丸となった気迫を感じる毎日でした。

確かに苦労も多いです。けれどもそれを補っても余りあるやりがい「ありがとう」「助かったよ」の感謝の言葉です。

ともに汗を流し、知恵を絞りつつ成長を実感できる毎日を送ってみませんか？

足立区長(平成19年6月就任) 近藤 やよい

足立区 職員採用案内&区政要覧 2025 令和7年1月発行

発行/足立区 〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1

編集/足立区 総務部 人事課

Tel/03-3880-5831 mail/jinji@city.adachi.tokyo.jp

写真(足立の花火)/あだち街フォトコンテスト投稿作品(撮影 Taloon)

写真協力/(一財)足立区観光交流協会、加藤有紀、菅田亨

足立区採用HP



足立区

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

千住にキャンパスのある東京藝術大学と足立区などが一緒に展開する
まちなかアートプロジェクト「音まち千住の緑」が開く千住の文化サロン「仲町の家」。
江戸時代に千住のまちづくりに携わった石出掃部介吉胤（いしでかもんのすけよしね）の
ご子孫のお宅で、しばらく空き家となっていたが、今は、
人と人、人とまち、人とアートをつなぐ拠点となっている。
写真は仲町の家で活動する東京藝術大学（千住キャンパス）4年生（撮影時）

足立区が
魅力的なワケ
1
千住



北千住駅すぐの
飲み屋横丁



にぎわう商店街

遊びに行きたくなるワケがあります

新旧モザイクな 穴場タウン 千住

メディアの露出が増え、このごろ話題の千住エリア（※）。
荒川と隅田川に囲まれた島のようなまち、
足立区のキータウンをのぞいてみよう。 ※ 駅名は北千住



千住宿開宿
400年記念
ロゴマーク

古くて新しいまち

2025年、千住宿開宿400年を迎える千住。江戸四宿のひとつとして

江戸時代から活気にあふれた旧日光街道は、今は商店街となつて賑わう。まちは



路地裏の空き家だった民家をリノベーションした
カフェわかば堂と島川さん。今ではこの路地に何
軒ものリノベーション飲食店が建ち並ぶ



「カフェわかば堂」について「路地裏で家賃が安かったんです。立地が悪くても一度来店されたお客様が気に入れば必ずまた来てくださる。古い建物に興味を持つ若い世代が多いですね」と話す。古い建物の活用、リノベーションは新築とは違って、根気も要るし難しさもあるが、家賃が抑えられることもあり、千住では、若い世代がチャレンジしている事例が多い。

10年以上空き家だった物件を、飲食店やパン教室の入るシェアスペースにリノベーションした「せんつく」を運営する建築家の青木公隆さんは、アーティストやクリエイターと一緒に

に空き家活用に取り組んできた。

また、20年以上廃墟だったボーリング場と浴場跡をカフェを併設したアトス



シェアスペース「せんつく」と青木さん

かつての町割りや建物を残し、路地にある空き家を利用した古民家カフェやネオ酒場が、古くて新しい表情を見せる。テレビや雑誌での紹介も増え、都会で働く散歩女子のバイブル「オズマガジン」が編集した「北千住」特集は100店を超えるスポットを総力取材し、話題となった。



江戸時代に江戸はもちろん近郊からも患者が訪れた「ほねつぎ」の名倉医院は、現在は整形外科に

若い世代が
古い建物を活用

千住に6軒のリノベーション系飲食店を展開する島川一樹さんは、最初に手がけた

ポットとして再生した「BUOY」など、空き家や廃墟を活用したアトススポットも増え、千住は近年、アトファンにも人気のまちだ。

かつては、千円でべろべろに酔えるいわゆる「せんべろ」のまちとも呼ばれ、飲み屋街や、にぎやかな商店街のイメージが



前衛的なアート展示や演劇が人気のBUOY。代表の岸本さんと

が功を奏し、近年は「親父のまち」から「若者のまち」へとイメージが変わりつつある。

暮らしが息づくまちのなかに、「とき」が重なる風景は豊かだ。古いものも残しながら、恐れず新しいものを受け入れ変化してきたのは、人が行き交う宿場町だったDNAのなせる業かもしれない。



昭和13年築の和洋折衷が印象的な板垣邸が、2020年、地元起業家の手で魅力的な食事処「和食板垣」に生まれ変わった（国登録有形文化財）



宿場町だった旧日光街道沿いに残る江戸時代の地蔵紙問屋、横山家



散歩が楽しい見沼代親水公園は、かつての農業用水路を生かした親水公園。ほかにも区内には水辺のある公園が多い

暮らしたくなるワケがあります

川があること 緑があること

足立区は、都心に近く便利なのに、水と緑が身近にあり、
疲れた日には心癒してくれる場所がある。

「荒川土手では、デリバリーサービスを頼んだり、お弁当を持って行ったりして、家族でゆっくり過ごしています。土手は空が広く、特に早朝の空は青くてすごく好き。遠くまで景色を見渡しながらのジョギングも気持ちいいです」（足立区で子育て中の和田真寛さん）。

都心に暮らすのは魅力だが、一方でストレスも多い。忙しい日常の中で、身近なところで自然に触れられるのは貴重だ。

足立区は四方を川に囲まれている。河川敷が広く、区民の憩いの場となっている荒川は、実は大正時代から昭和初期にかけて、人の手で掘られた人工の川（放水路）だ。2024年、通水100周年を迎えた。今では子育て世代や、ランニング、サイクリングを楽しむ人たちにも親しまれる存在となっている。また、様々な文学にも

水辺がいっぱい

足立区はタコさんすべり台発祥の地ともいわれ、区内に11体の特色あるタコがいるほか、イカ、鬼、恐竜、ミニ列車など、ユニークな遊具が多い



さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を機にスタートしたオランダ連携プロジェクト「Game Changer」が緑となり、アジア圏で初めてバリアフリー対応の多目的スポーツ施設「スペースクラフトコート」が総合スポーツセンター公園に設置された。足立区ではパークイノベーション推進課が中心となり、特色ある公園づくりを進めるとともに、インクルーシブ化にもチャレンジ中だ。

公園天国・あだち

区立の都市公園面積は東京23区2番目。なかでも、農業体験なども楽しめる都市農業公園、都立公園で23区3番目の広さを誇る舎人公園、細長く続き遊具や水辺なども充実している都立東綾瀬公園など、特色ある大きな公園も魅力だ。「公園天国・あだち」と呼ぶ人も



春は桜とネモフィラが人気の舎人公園

あだちは桜のまち

もうひとつ注目したいのが、区の木でもある「桜」だ。区内には、桜並木や桜を楽しめる公園が多い。多いだけでなくその一つひとつにたくさんの物語がつまっている。

たとえば、荒川土手に植えられた約4.4キロの「あだち五色桜の散歩みち」。川風に吹かれながらのんびり歩いて約2時間。開花の時期はもちろん、緑や紅葉の季節もとても気持ちがいい。明治期に住民が育て、都内有数の桜の名所となった川辺の桜を、平成の時代に区民などの寄附を募って復活させた（一部区間を除く）。明治期に78品種といわれる色とりどりの桜が植えられた土手が「五彩の雲が棚引く如し」と評されたことから「五色桜」と名づけられたという。

水と緑は足立の原風景であり現風景。にぎわいと自然。住民の思いが支えてきた風景は足立の誇りだ。



桜つみ（堀之内）

広い荒川の河川敷で、お子さんと鬼ごっこで走り回る和田さん。
お子さんものびのびと楽しそう

足立区が
魅力的なワケ
2
川と緑



夢かなえよう。

with あだちの6大学

様々な連携を通じて、大学生は学校だけでは学べない経験をここ足立区で積んでいる。さら

令和3年4月、足立区と埼玉県との都県境に位置する花畑に文教大学東京あだちキャンパスがオープンした。千住エリアにある5つの大学と合わせ、足立区は専門分野の異なる6つの大学と一万八千人もの学生が通うまちになっている。

若者の流入により活気が生まれ、まちの景色やイメージも変わったが、足立区が大学誘致に力を入れてきた大きな狙いはもう一つある。それは、「6つの大学とまちがつながる」こと。区民に開かれた講座やイベント、産学官連携など、各大学の特色を生かした連携が進んでいるのも足立区の特徴だ。

6大学のまち



区内6大学の特長を活かした講座や講演会を「リレー形式」で年に3回実施。写真は文教大学で行った、自分で作ったプログラムでドローンを飛ばす講座。倍率は25倍以上を記録した

に、足立区の子どもたちは大学を身近に感じること、夢や目標を持ち成長する。足立区に6つの大学があるメリットは限りなく大きい。

夢を諦めさせないまち

中学校を卒業した時点で、基礎自治体の支援が途切れてしまうことは少なくない。しかし、そこで終わらないのが足立区。意欲があるにも関わらず、家庭環境等により進学にハードルがある子どもたちを全力で



足立ミライゼミ第1期の受講生の約半数が、模擬試験で第一志望の合格判定B判定以上を獲得した。塾生からの満足度も高い

応援している。

成績上位であるものの、家庭の事情などにより塾に通うことができない区内在住の高校生を対象に、無料学習塾「足立ミライゼミ」を開講。入塾生たちは、難関大学合格に向けて、3年間切磋琢磨している。

また、奨学金返済不安から、進学を断念する子どもも少なくない。そこで足立区では、令和5年度から、返済不要の「給付型奨学金」をスタートさせた。「どのような家庭状況であっても夢や希望を諦めてほしくない」。その想いで小・中学生では終わらない切れ目ない支援を展開している。



足立区には、子どものためのユニークな体験施設がいろいろある。子ども時代ならではの、かけがえのない体験の機会をたくさん提供する（15ページも参照）



はばたけるワケがあります

夢かなえよう 足立区で生きるチカラを育てるまち

足立区の魅力は「人」にあり。中でも足立区の将来を担う子どもたちの支援には、並々ならぬ思いがある。人づくりは未来づくりだ。



給食が「おいしい」まち



映画「おいしい給食 Road to イカメシ」とのタイアップで俳優の市原隼人さんがおいしい給食を体験。「本当においしい!」と大絶賛だった

足立区の子どもたちに学校の自慢を尋ねると、「給食がおいしい!」の答えが多く返ってくる。子どもたちの「絶対味覚」を育てるため、旬の食材や天然出汁にこだわりの、栄養バランス抜群の給食を提供するのが、足立区の「おいしい給食」だ。企業とのおいしい給食コラボ商品開発や2冊のレシピ本出版、映画とのタイアップなど、全国的にも大きな注目を浴びている。

足立区の「おいしい給食」は環境にもやさしい。小・中学校の総残菜量は、平成20年度の381トンから、令和5年度は112トンと3分の1以下にまで減少した。

子ども自身が正しい食習慣と自分の健康を守る食に関する知識を身につける独自の取り組み「あだち食のスタンダード」が、足立区の子どもたちの未来を切り拓く。

足立区が選ばれるワケ

～100年に一度のまちの変化～

近年、大規模マンションの建設や若い世代の人口流入が顕著な足立区。

その大きな理由がまちの変化だ。

足立区では、魅力的なまちの将来像を描き、民間活力や区有地等を効果的に活用することで

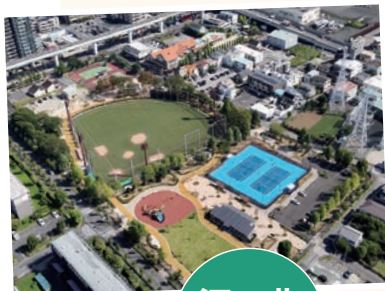
イメージアップをはかる区独自のまちづくりの手法「エリアデザイン」を展開中。

100年に一度の変化の真っ只中の今、注目の4エリアを紹介する。



テーマは“健康”

令和4年に開院した「東京女子医科大学附属足立医療センター」を核とした「健康」がテーマのまちづくりを展開。令和7年度に開設する「すこやかプラザあだち」では、13種類の健康チェックなどが始まり、医療・介護・健康の拠点としての役割を果たす。加えて、2つの大規模スポーツ施設のオープンも続く。「住んでいるだけで自ずと心身ともに健康になるまち」をめざす江北エリアの進化は始まったばかり。



区内初の人工芝の野球場などを兼ね備え、令和6年9月1日にリニューアルオープンした「上沼田東公園」

大きな変化が続く注目タウン

令和4年、竹ノ塚駅の東西を長年分断していた「開かずの踏切」が鉄道高架化により解消。駅高架下には20店舗以上からなる商業施設がオープンするなど、大きな変化のときを迎える竹の塚。現在、様々な人が集い、憩い、多様な活動に繋がる駅前空間整備に向けて検討を進めている。まちの「にぎわい」と住民の「交流」により、めざすは「人が主役のまち竹の塚」。



東口駅前空間のアンケート時に使用しているパース(イメージであり、実際の整備内容とは異なります)

7つのエリアデザイン



東京電機大学東京千住キャンパス(平成24年4月開設)



綾瀬駅(右)と北綾瀬駅(左)の駅前交通広場イメージ

進化を続けるモザイクタウン

大学誘致により、6年という短期間で新たに4校の大学が開校した千住は、5大学・約1万6,000人の学生が集う「若者のまち」に様変わりした。活気に後押しされ魅力的な店舗が次々に開店。大規模マンションの建設も続くなど好循環が続いている。

一方で、かつての宿町だった名残や、旧家や飲み場など古き良き街並みも残るのが千住の大きな特徴。新旧入り混じりながら、進化を続ける唯一無二のまちだ。

駅前が変わる2つの駅

令和7年に駅前交通広場が運用開始となる綾瀬駅・北綾瀬駅。

1月中旬から先行運用が始まる綾瀬駅では、旧こども家庭支援センター等跡地に「保健センター」「区民事務所」「子育てサロン」「講堂(ホール)」を集約した施設を整備予定。東京メトロ千代田線の直通運転により利便性が増した北綾瀬駅では、夏の駅前交通広場運用開始と同時に約50店舗からなる大型商業施設もオープン予定。公園が多く、緑が豊かでファミリー層から人気の綾瀬・北綾瀬エリアは、今後大注目のまちだ。

協働・協創を進めるワケ

～活力にあふれ、進化し続けるまちへ～

治安、学力、健康、貧困の連鎖。

足立区では、これらをボトルネックの課題(※1)と位置づけ、様々な取り組みを行ってきた。

その結果、刑法犯認知件数はピーク時から約7割減少。他の課題でも大きな成果を挙げている。

取り組みに欠かせなかったのが、住民や企業との連携。

それぞれの想いや力の重なりである「協働・協創」が、足立区を前進させるエンジンとなっている。

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI

地域の美化による、治安改善

ニューヨーク市で成果を上げた「割れ窓理論」から着想を得た、まちをキレイにすることで犯罪を抑止する区独自の取り組み「ビューティフル・ウィンドウズ運動」。

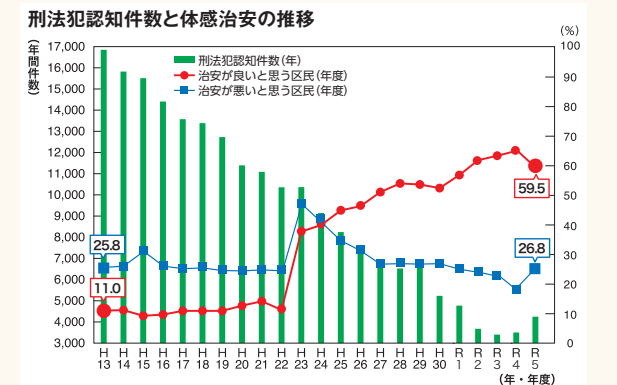
地域と連携した清掃活動や、地域の方や団体と一緒に花を増やすことで、まちを彩ると同時に地域の安全も見守る「花のあるまちかど」、日常活動をしながらまちを見守ってもらう「ながら見守り」など、様々な事業を展開。

足立区や区内4警察署など、行政の力だけでなく、足立区に関わる全ての方を巻き込むことで、刑法犯認知件数はピーク時から約7割減少した。

区外在住者からのマイナスイメージの最大要因である治安イメージ向上をめざす足立区の挑戦は終わらない。



運動に取り組む全ての方がビューティフル・パートナー



刑法犯認知件数の減少とともに「治安が良い」と感じる区民の割合も上昇。約6割が治安が良いと感じている

野菜を食べて健康に「あだちベジタベライフ」

平成25年度に、それまでの総花的な健康対策から、「糖尿病」に的を絞った独自の施策に舵を切った足立区。重点を置いたのは「野菜を食べる」ことだ。推進するうえで欠かせないのが区内飲食店やスーパーが加入する「ベジタベライフ協力店」。10年間で約900店舗まで広がり、独自のベジタベメニュー販売や啓発活動など、野菜を食べやすい環境づくりの一翼を担っている。

大型商業施設やコンビニエンスストアとも連携。こうした縁から区内のセブン-イレブン約140店舗でコラボ商品(写真右下)の発売にも繋がり、行政の情報が届きにくく、野菜の摂取も少ない若い世代に事業を届ける大きな役割を果たしている。

現在は健康寿命が男女ともにスタート当時と比べて約2歳延伸(※2)。糖尿病の医療費も23区ワーストから18位まで改善した(※3)。様々なステーキホルダーとの連携により目指すのは、「住んでいるだけで自ずと健康になれるまち」だ。



セブン-イレブンとのコラボ商品「こまつなサラダ」。コラボは区制90周年(令和4年)から3年連続で実施。おいしい給食の人気メニュー「えびクリームライス」の商品化も行い、区内外で展開している

綾瀬を舞台に「やりたいこと」を応援

内閣府がSDGsの優れた取り組みを行う全国の自治体の中から選定する「SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に、令和4年度ダブル選定された足立区。

モデル事業の舞台である綾瀬では、「人づくり」と「場づくり」に重点を置いた事業を展開。「やってみたいを、やってみる」をコンセプトにオープンした「あやセンター ぐるぐる」は、様々な人や活動が交わり、やってみたいことを実現するためのコミュニティの循環を生み出す役割を果たし、大小様々なイベントが生まれている。

「活力にあふれ、進化し続けるまち」実現のためのヒントが詰まったラボ。それが綾瀬だ。



長年空き店舗だった高架下の物件を、ヒト・モノ・コトが循環(=ぐるぐる)するコミュニティハブにリニューアル

※1 克服しない限り区内外から正当な評価が得られない根本的課題
※2 「厚生労働省健康寿命の算定プログラム」により、平均自立期間を区が算出
※3 東京都国保連「特定健診・保健指導支援システム」生活習慣病の状況(外来) 令和5年5月

事務職

総務課統計係
令和6年度採用



100年に一度の過渡期に職員として携わる

多様な人々と関わることができる仕事

統計調査に関する業務を担当しています。基幹統計調査と呼ばれる、学校・建設工事・家計などの、さまざまな調査の準備や回答の収集を行います。実際にご家庭を訪問したり、調査票の収集を行う統計調査員の募集業務も行っています。

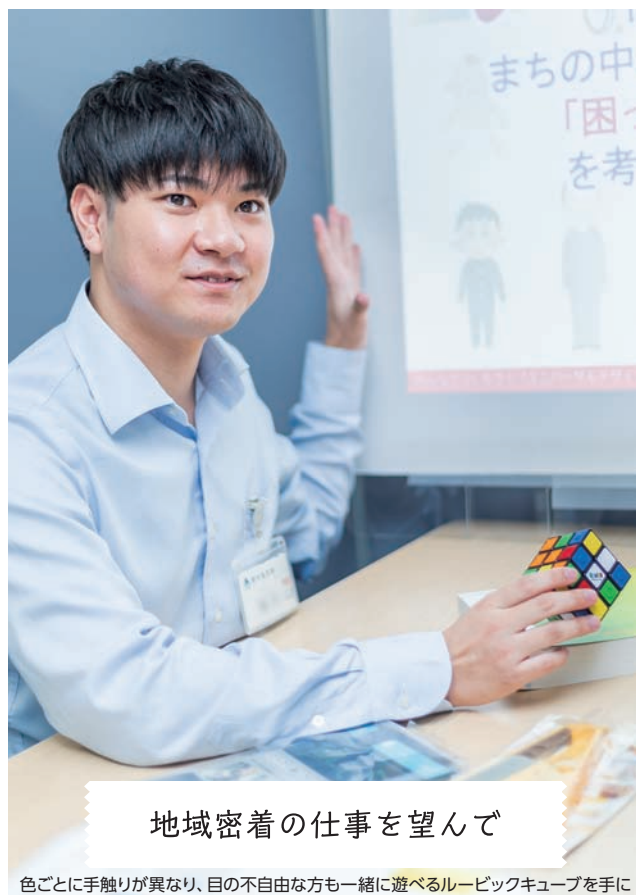
信頼される職員として、誠意を持った対応を

新任職員という立場だと、仕事を進めていく上で、分からないことがたくさんあります。そこで無理をしてミスに繋がないように、周りの先輩職員にとにかく聞くということを心がけています。意見をいただく機会があることで、自身の業務の更なる研鑽にも繋がっています。



技術職（建築）

都市建設課ユニバーサルデザイン担当
令和5年度採用



地域密着の仕事を望んで

色ごとに手触りが異なり、目の不自由な方も一緒に遊べるルービックキューブを手に

自分の仕事が形として残る

年齢、性別、国籍などに関係なく、すべての人が使いやすいように、モノやかたちをつくる「ユニバーサルデザイン」。この事業の推進計画進行管理（審議会運営）や、普及啓発（小学校への出前講座や講演会の実施）を行っています。自分の仕事が、足立のまちに目に見えて残ることに、とてもやりがいを感じます。

多種多様な経験ができる

区役所では部署異動で幅広い経験ができます。配属された部署で携わる業務によって、あらゆる方面から地域に貢献できるのも魅力の一つです。以前、小学校に出前授業をしたときに、子どもたちが「将来先生と同じところで働いてみたい」と言ってくれました。自分のやっていることが誰かに影響を与え、子どもたちにも仕事が認められたと感じたときは、区職員として誇らしく思いました。



技術職（土木）

道路整備課整備第一係
令和4年度採用



慣れ親しんだ地元のために

多くの人の役に立てることが魅力

都市計画道路の整備を担当しています。現在行っている工事では、最終段階の舗装などを担当しています。整備完了までに長い期間がかかりますが、さまざまな人と関わりながら工事を進めていき、多くの人に貢献できるところが魅力だと感じます。

やりがいのある仕事

小規模ではありましたが、1つの工事の積算から発注、監督までを自分が担当する経験をしました。工期が短く、年度末で他の業務とも重なり大変でしたが、その分完了したときにとても達成感がありました。橋や道路など、長い間多くの人に使われる施設を作る今の仕事は、とてもやりがいがあります。



保育士

千住あずま保育園
令和6年度採用



日々成長する子どもたちをサポート

担当制保育に魅力を感じて

愛着形成に重要な乳児期における担当制保育の導入や、本当に子どものためになる保育を探究し続けている足立区職員の姿を知り、そのような環境で、私も保育を行いたいと感じました。園児一人ひとりの興味や発達に合った活動を日々考え、先輩保育士と共に、子どもの成長を喜んだり、悩んだりしながら保育を行っています。

子どもたちの気持ちに寄り添えるように

私の担当している1歳児クラスでは、まだ言葉を話せる子どもが少なく、仕草や表情などでコミュニケーションを取っています。そのため、些細な表情の変化や仕草に注目することが大切です。園児の気持ちを汲み取ろうと意識することで、発見できる気づきがたくさんあります。



good!

各種選挙の管理執行、啓発に関する業務を行う中でも、私は主に、ポスター掲示場の設置などを担当しています。選挙時の繁忙期は慌ただしい毎日が続きますが、やるときはやる、休むときは休むというメリハリをつけています。

仕事終わりには同期や先輩と飲みに行ったりします。飲み屋の多い北千住が区役所から近いため、北千住で飲むことが多いです。

1日のスケジュール

5:30 起床
8:30 勤務開始
9:00 事業者へ見積依頼
10:00 資料作成等
12:00 昼食
13:00 ポスター掲示場設置候補地現地確認
17:15 退勤
19:00 同僚と飲み会
23:30 就寝



■足立区をめざすあなたへ

足立区では若手職員でも挑戦できる機会がたくさんあります。区役所での業務は多岐にわたるので、今まで知らなかった知識や発見がある絶好の職場です。

また気持ちの切り替えの場として、「北千住」はうってつけです。昔ながらのレトロなお店から、新しいオシャレなお店が入り混じった、老若男女問わず楽しめる街です。ぜひ立ち寄ってみてください。

休日は子どもと足立区にある生物園やギャラクシティ、近所の公園のじゃぶじゃぶ池などによく行っています。ミニ列車や面白い遊具がある公園も多いので、家から少し遠い公園にも遊びに行っています。職場でも家族ぐるみで仲良くしているママ友・パパ友が多いので、お互いの家に行き来し子どもたちを遊ばせたり、舎人公園で集まりBBQをしったりしています。

1日のスケジュール

6:00 起床
8:00 子どもを保育園へ送迎
8:30 勤務開始
スケジュール・メールチェック
課内打合せ
9:00 資料作成
12:00 昼食
13:00 メールチェック
15:30 関係機関と打合せ
17:15 資料のまとめ、退勤
17:40 保育園に子どものお迎え
18:10 夕食
19:00 食事の片づけ、お風呂 (夫と分担)
20:30 寝かしつけ、翌日の準備 (夫と分担)
22:30 就寝



■足立区をめざすあなたへ

家族や子どもとの時間を大切にしたい方でも働きやすい職場です。繁忙期の残業が多い時期などはメリハリをつけるなどして、仕事とプライベートのバランスを保つこともできます。私自身も、家族で食事をする時間を作るために、定時退庁を目標にしている、日中の仕事の優先順位を決めながら仕事をしています。

足立区で働くと良いワケ

第一子を出産後、令和6年5月に育児休業から復帰しました。子どもが1歳3ヵ月になるまでは育児時間と部分休業を併用しながら働いていて、現在は部分休業のみ取得をしています。子どもの発熱や体調不良など、急に休まなければならない日は、子の看護休暇を利用するなど、ライフステージの変化に合わせて柔軟な働き方ができる職場です。

1日のスケジュール

7:20 起床
7:50 出発 保育園送り
9:30 勤務開始
メール・文書のチェック等
12:00 昼食
13:00 係会
15:30 調査員の選定、調査区の設定等
16:45 退勤
18:00 保育園お迎え 帰宅
18:20 夕食
19:30 お風呂
20:00 子どもと遊びながら翌日の準備
20:50 寝かしつけ
21:30 家事・晩酌
23:30 就寝



■足立区をめざすあなたへ

悩みを相談できる心強い上司や先輩がたくさんいます。日頃から周りの職員とコミュニケーションを取りながら働くことを心がけているので、困ったときにすぐに相談でき、スムーズに業務が進みます。先輩パパや先輩ママもいるので、時には育児の相談をすることもあります。

高齢者の孤立対策（孤立ゼロプロジェクト）として、高齢者の実態調査や地域の方の力で高齢者をささえていく関係（絆のあんしんネットワーク）づくりなどを行っています。担当する事業は、町会・自治会や地域の皆様の協力があるてはじめて成り立ちますので、日頃からの関係づくりを大切にしています。

個人的には子どものお迎えのために定時には退庁したいので、一日の中でも細かいスケジュールリングや具体的な目標を決めるなど、限られた時間の中で仕事ができるよう、計画的に業務を行うことを意識しています。

1日のスケジュール

4:50 起床
7:15 勤務開始
スケジュール・タスク確認
10:00 説明会資料・物品準備
12:00 昼食
13:00 町会・自治会への説明会
15:00 書類整理、係内情報共有
16:15 退勤
17:30 保育園に子どものお迎え
18:30 夕食
22:00 就寝



■足立区をめざすあなたへ

異動した部署によって、まるで転職したかのように業務内容が変わるので、幅広い業務を体験できるのが魅力です。また、足立区は乗り入れている路線の数も多く、テレワークの活用でさらに居住地を選ぶうえでの選択肢が増え、仕事とプライベート、育児、介護などの時間を両立できる職場だと思います。

ライフステージに合った
働き方で仕事と子育てを両立

総務課統計係

平成31年度採用



時差勤務&テレワークの
W活用で時間を効率化

絆づくり担当課 絆づくり事業調整担当

平成21年度採用



若手職員のホンネ



A：私立保育園 B：住区推進課 C：住宅課

足立区を希望区に選んだワケは？

A：私立保育園
通勤のしやすさがきっかけでした。また、もともとまちづくり関係に興味があったので、入区前に「アヤセ未来会議」を見学してみました。参加者の地域に対する熱い思いに驚きがありました。

B：住区推進課
教育に力を入れている足立区に惹かれました。いろいろな自治体の施策を調べましたが、足立区と自分のやりたいことが一致していました。

C：住宅課
街歩きをした雰囲気が落ち着いていました。都会過ぎない下町なので、住みやすい場所かなと。生物園にも遊びにいきました。

ランキング「足立区を希望区に選んだワケは？」

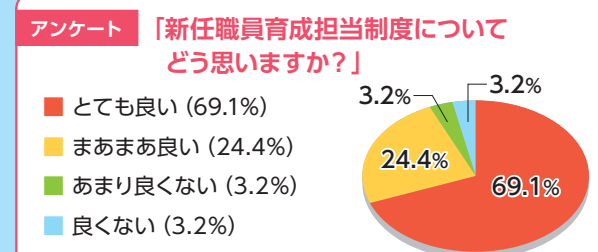
- 1位 地元・なじみ深い場所だから
- 2位 通勤しやすいから
- 3位 施策に魅力を感じたから
- 4位 自然が多い・環境がいい
- 5位 周辺家賃が安いから



足立区を選んでよかったことは？

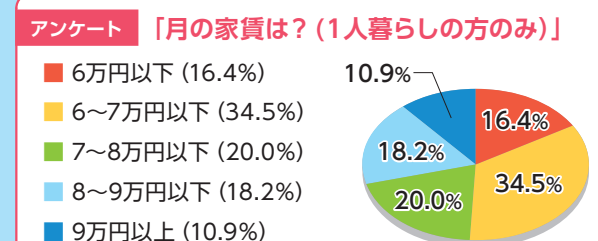
A：私立保育園
職場の雰囲気がとても良く、尊敬できる上司や先輩が多いです。わからないところがあっても聞きやすい環境です。

B：住区推進課
同感です。育成担当職員の先輩もいるので、優しくサポートしてくれます。先日、その先輩とご飯にもいきました。



POINT 足立区には新人職員に対して1年間、育成担当職員がついてサポートする「新任職員育成担当者制度」があります。

C：住宅課
家賃が安いのも魅力ですね！私は地方出身なので、一人暮らしをするうえで助かっています。



POINT 「最大27,000円」の住居手当が支給されます。

ランキング「足立区役所で働いていて良かったことは？」

- 1位 職員が優しく親切で働きやすい
- 2位 通勤しやすい
- 3位 休みが取りやすい
- 4位 仕事にやりがいを感じる
- 5位 時間外手当が適正に支給される・残業時間が少ない

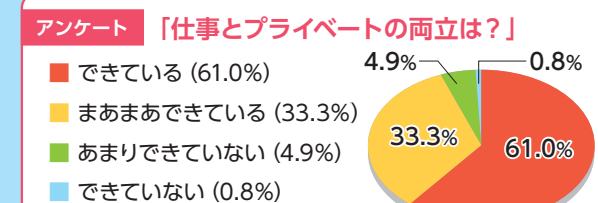
プライベートはどう過ごしている？

A：私立保育園
友だちとサッカーを観に行ったり、近場の温泉に行ったりしてリフレッシュしています。

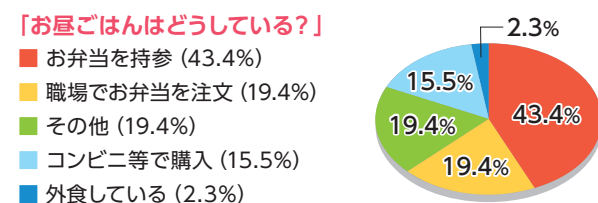
B：住区推進課
友だちや同期とご飯に行ったり、趣味に時間をかけたり、自分の好きなことをしています。

C：住宅課
仕事終わりや休日はバドミントンをしています！区役所の部活には入らず、週2回程度練習しています。

POINT 足立区には、運動部18部、文化部8部があります。自分の趣味に合った部活に入部することができます。



気になる若手職員+α情報 お昼・通勤・残業



「残業時間はどれくらい？」
9時間（アンケートに回答した新人職員の平均残業時間）



若手職員に聞いた 足立区のリアル

- ・1年目から責任感のある仕事を任せてもらえます
- ・休みが自由に取りやすいです
- ・職場の雰囲気が硬いというイメージを持っていましたが、和気あいあいとしています
- ・必ず出勤をしなけいけいと思っていましたが、テレワークもできてワークライフバランスが自分でコントロールしやすいです
- ・先輩から厳しく指導されると思っていましたが、どんな小さな質問をしても丁寧に向き合ってくれます
- ・前職に比べて圧倒的に残業が少なく、休みもあるので働き方の意識が変わりました
- ・街並みもきれいで区民の方々も温かく、治安が悪いと感じることがないです
- ・定時帰りの公務員のイメージとは違い、繁忙期などには残業もあります。が、メリハリつけて頑張っています
- ・本庁舎が駅から少し遠いですが（バス停は本庁舎の目の前ですが…）



創業するなら「足立区」で！

創業支援施設や起業セミナー、相談窓口など、足立区の創業支援は伴走型でかつ多彩です。「創業プランコンテスト」は優秀なアイデアを持つ人の創業を応援、最大200万円の補助金は他区と比較しても金額が大きく、夢の実現に向けて区が強力にサポートします。足立区で創業する人は地元へ愛着を持つ「足立LOVE」の人が多いのが特徴。創業者同士のコミュニティも活発です。

5つの路線が乗り入れる北千住は、都心や空港へのアクセスが良く、しかも都心に比べて物件の価格が手頃なので、創業には最適のまちです。

令和4年度「創業プランコンテスト」で最優秀賞を受賞した(株)葉Zaikoの海老沼さん



※3

ものづくりのまち

足立区は23区で2番目に多い工場数を持つ東京屈指のものづくりの街です。皮革、金属加工、プラスチックから縫製、印刷まで、多様な工場の熟練の職人たちが、優れた製品、技術を生み出しています。最近では区内大学生のアイデアで、異なる業種の町工場がタッグを組み新製品を開発するなどの取り組みも。

さらに、メイドインあだちを世界に発信する企業や、区内企業を牽引するリーディングカンパニーの創出に挑戦しています。

工

デザインの力で足立区のものづくりを応援する「足立道具店」の一戸さん(右)。金属加工の福澤製作所で

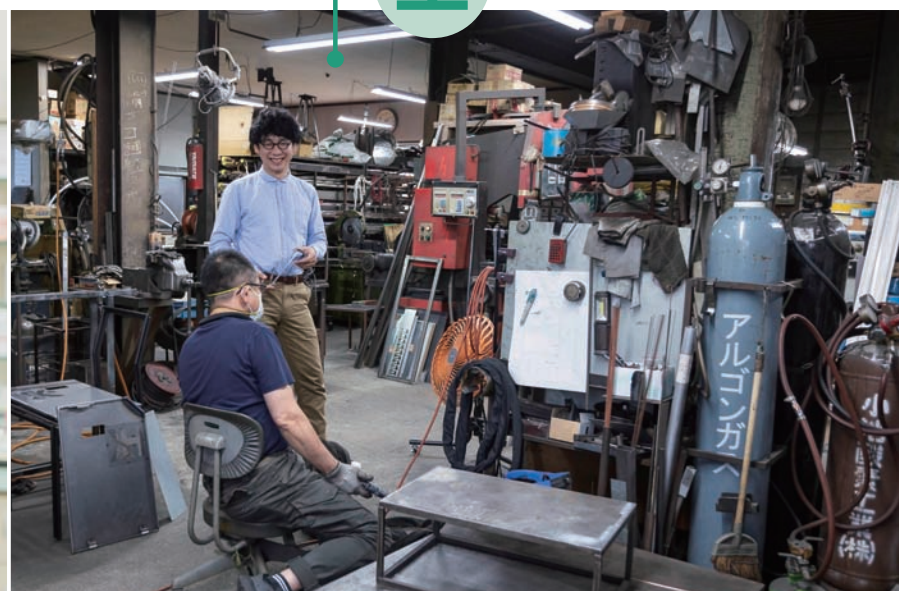


※2



※1

- ※1 足立道具店企画・製作の卓上Aスタンド
- ※2 区内大学生と町工場のコラボで生まれた珈琲豆の麻布バッグ
- ※3 足立区生まれの知育玩具「リボブロック」



ふれあいコーナーが人気のモルモット



※



常時約20種類、約500匹の蝶が飛び交う大温室



幅10m続くクライミングウォール



大人気のネット遊具

足立区で江戸時代から営む農家、宇佐美農園では小松菜を区内の学校給食にも提供。写真右が7代目宇佐美一彦さん、左が8代目大さん

都市農業のチャレンジ

足立区の農地面積は23区中3位、小松菜や枝豆などが特産です。新しい都市農業にもチャレンジしており、特に学校との連携はユニーク。おいしい給食日本一をめざす足立区の給食に足立産の野菜を取り入れたり、収穫体験などを受け入れ、小・中学生に地域の農業や豊かな食を伝える農家もあります。

区内小学校では、農家からアドバイスを受け、江戸東京野菜「千住ネギ」の栽培授業で採取した種を下級生に引継ぎ取り組みも行われています。

農



足立区特産の小松菜

活気ある商店とまち

魚屋、八百屋、精肉屋や飲食店など、活気あふれる個人商店が軒を連ねる商店街。メディアで取り上げられることも多い足立区の商店街数は、70に及びます。マルシェなどの新しい取り組みも。

地域で愛されるお店をもっと知ってもらいたいと始まった、みんなが選ぶテーマ別「あだちの輝くお店セレクション」では、毎年、足立区の新しい魅力を再発見・発信しています。

※2024年「あだちの輝くお店セレクション」は辛いメニューがおいしいお店を募集

商

生物園

様々な生きものと出会う。

〒121-0064 足立区保木間2-17-1 TEL.03-3884-5577

開園時間／9:30～17:00 (2～10月)
(区立小学校の夏休み中は17:30まで)
9:30～16:30 (11～1月)

南国の蝶が頭上を飛び交い、アマゾンの大魚ピラルクが泳ぐ水槽もある大温室。里山の自然を再現した昆虫ドーム。約35品種の金魚が泳ぐ大水槽。一年中ホテルを育てる飼育室…。意外性のあるユニークなゾーンがいっぱいの、動物園ならぬ「生物園」は、全国的にも珍しい施設です。

とにかく生きものが近い！愛情たっぷり生きものたちを育てる飼育員に直接質問できるのも魅力です。



遊

ギャラクシティ

遊びながら学べる。学びながら遊べる。

〒123-0842 足立区栗原1-3-1 TEL.03-5242-8161

開館時間／9:00～21:30(こども体験エリアは18:00まで)

子どもたちの成長をバックアップする体験型複合施設です。高さ7.5mのクライミングウォールや国内最大級のネット遊具など、体と頭を思いっきり動かして遊べる遊具が勢ぞろい。工作エリアでは、創造力や表現力を高めるものづくり体験などを楽しめるほか、日本文化に触れる「ジャパンフェスタ」、様々な仕事を体験できる「こどもおしごとらんど」などの人気イベントも。また、ドームの大きさが23区最大のプラネタリウムでは、まるで宇宙にいるような感覚を味わえます。

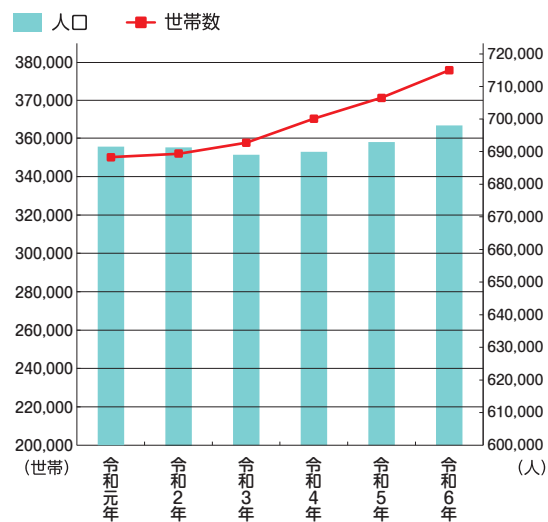
遊

Basic Data

足立区の世帯数	378,983世帯 (令和6年11月1日現在)	23区中 第4位
足立区の人口	698,188人 (令和6年11月1日現在)	23区中 第3位
足立区の面積	53.25km ² (令和6年11月1日現在)	

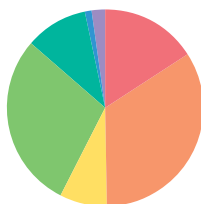
世帯及び人口 (各年11月1日現在)

鉄道網の発達、西新井地区・新田地区・千住大橋地区などの大規模集合住宅開発や大学の誘致などが進んだことにより、他自治体から足立区に移り住む人が増え、人口はこの5年間で約6,600人増加しました。



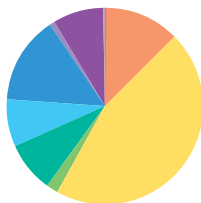
令和6年度当初予算(歳入)

総額	3,300億3,902万円
特別区税	523億1,474万円
特別区交付金	1,119億円
その他一般財源	256億9,412万円
国・都支出金	956億1,164万円
繰入金	340億6,029万円
諸収入	34億1,990万円
その他特定財源	70億3,833万円



令和6年度当初予算(歳出)

総額	3,300億3,902万円
議会費	9億5,583万円
総務費	412億3,381万円
民生費	1,493億5,905万円
産業経済費	72億7,236万円
環境衛生費	272億9,154万円
土木費	258億9,387万円
教育費	474億4,696万円
公債費	29億5,605万円
諸支出金	272億2,955万円
予備費	4億円



※ 歳入・歳出については、表示単位未満を四捨五入し、端数調整をしていないため、合計などが一致しない場合があります

区のシンボルマーク

足立区のAを元に、都市・自然・人間の調和を、水と緑のカラーで未来への飛躍を表現しています(平成3年制定)。



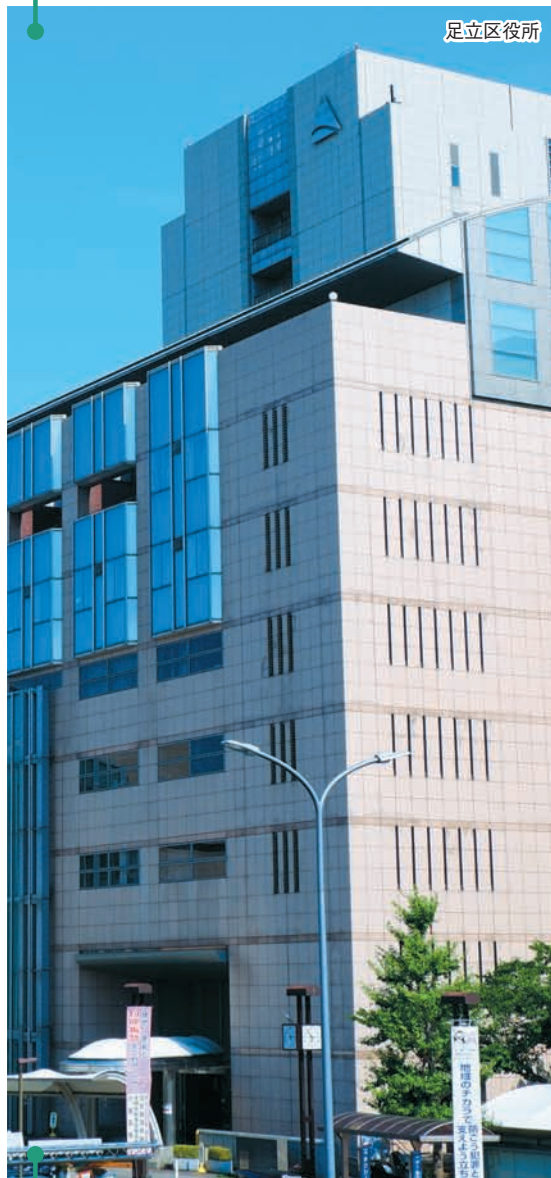
区の紋章

「足立」の足の字を図案化したものです(昭和33年制定)。



図書館が多い

どこでも本に触れられるまちをめざす足立区。図書館数は15館と23区で3番目に多く、ほかにも大学や区施設など、貸出・返却ができる7つの窓口があります。



足立区役所



江戸時代からアートのまち

今も「アートのまち」と言われる千住ですが、近年、江戸・明治時代に描かれた琳派などの美術品がぞくぞく発見され、美術界からの注目が集まっています。宿場町としての繁栄をベースに、生活の中で、豊かな文化が育まれてきたことがわかります。



区立学校数102校

足立区立の小学校数は67校、中学校数は35校。合計102校(※)です。小中学校が連携して、子どもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでいます。

※ 令和6年4月1日現在

足立タイムトラベル
現在の足立区が位置する場所は、かつて海辺に接する低湿地帯で、葦がたくさん生えていたところから「葦立ち」と呼ばれ「足立」になったという説があります。
1594年(文禄3年)、隅田川の最初の橋として千住大橋が架かると、多くの人たちが千住を往き交うようになります。千住は日光と江戸を結ぶ日光道中の初宿「千住宿」として、多くの旅人でにぎわいました。松尾芭蕉が「おくのほそ道」へと旅立ったのも千住です。
江戸時代には、湿地だった東部にも新たに人々が住み始め、明治時代を迎える頃には、足立区の大部分は米や野菜をつくる農村地帯となりました。
大正時代になると数多くの工場や住宅ができたため、人口が急増。
「足立区」は1932年(昭和7年)、旧東京市に編入された際に誕生。1947年(昭和22年)に東京23区のひとつとなりました。



返さなくていい奨学金

足立区では令和5年度より、学業成績が優秀でありながら経済的な理由により修学が難しい学生を対象に、年間で735万円を上限とする給付型奨学金をスタート。ほかにも民間事業者を活用した「足立はばたき塾」、教員による中1向けの勉強強宿など、区独自の学力向上支援策は、各方面から注目を集めています。

公園面積が広い

水と緑が身近にある足立区。足立区立の都市公園面積は224万7,757m²、その広さは23区第2位(※)です。

※ 令和6年4月1日現在



穴場な街 No.1

SUUMO「住みたい街ランキング 首都圏版」の「穴場だと思っ街ランキング」の1位に2015年から10年連続(※)で北千住が選ばれています。

※ 2018年調査より調査方法を一部変更

東京で一番早い花火大会!

足立の花火は1時間に約1万3,000発打上げられる超高密度花火。広々とした荒川河川敷に座って見上げる大輪の花火は、心と体に響きわたります。

このほか、舎人公園千本桜まつり、しょうぶまつり&世界の食広場、あだち区民まつり、光の祭典と、1年を通して多彩なイベントを開催しています。

